

市民参加型 再生可能エネルギー事業について



東京大学 教養学部附属教養教育高度化機構
環境エネルギー科学特別部門 客員准教授
松本 真由美

市民ファンド

- 市民や個人投資家から少額の投資を募る。
- 一般に「町・市内枠」「県内枠」「全国枠」の出資枠
- 法律的にNPOが出資や配当を取り扱うことができないため、仕組みや企画を提供する事業会社を作る必要がある。また金融商品取引法への登録が義務付けられている。
- 投資をするだけでなく、投資に対する配当として商品や様々なサービスを受け取ることができる。
- 市民ファンドの出資によって地域に利益がもたらされると同時に、出資者が地域のサポーターになる。

市民力を活かした風力発電事業

市民風車



全長100m、ブレード半径35m
1,500kW風車1基(ドイツTacke社)

年間発電量: 370万kWh(1100世帯分)

総事業費: 3億数千万円

事業目的: 東北電力への買電事業

市民ファンド: 1200口(県民枠)、582口
(全国枠)

- ・日本では2例目の市民風車
2003年2月より稼働
- ・出資者の名前をタワーに刻む。
- ・特産品の開発やエコロジーツアーを企画し、
地域と出資者間で交流

市民風車「わんず」(青森県西津軽郡鰺ヶ沢町)

出所: NPOグリーンエネルギー青森

太陽光のまちづくり

長野県飯田市

- 全国初となる市民出資による太陽光発電所をつくった。
- 飯田市、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田信用金庫による官民協働事業の一環として、太陽光発電システムを初期投資なしで設置可能にする「おひさま0円システム」を導入。おひさま進歩エネルギーが、3.5kW程度の太陽光発電システムを飯田市内の住宅に設置して、住宅所有者が毎月1万9800円を9年間支払うことで、初期投資なしに太陽光発電システムの導入を可能にした。



市民ファンドの小水力発電でまちおこし

山梨県都留市

設備容量:20kW

運転開始: 2006年4月



元気くん1号

市民出資型プロジェクトは地域共生に有効



- 持てる者と持たざる者との**二項対立の回避策**として、「市民共同発電」式アプローチができる。
- 市民ファンドへの配当などで地域に経済的に還元させる。
＝「地域の資源は地域のもの」
- 市民や出資者がファンになってくれ、環境意識も向上。